

平成 23 年度科学・技術関係予算についての意見募集結果
 (24184：大学等産学官連携自立化促進プログラム)

ご意見の概要	件数
このまま推進すべき	22件
改善・見直しをした上で推進すべき	2件
推進すべきではない	0件
その他	0件
合計	24件

【主なご意見】

新技術の展開は地域、業界に合った手法が必要であり、状況を良く理解した者が大学の研究者と企業間を調整し、連携をスムーズに進めるには、産業界を熟知した人材の設置が必要である。二 - ズにマッチするシ - ズを提供できる環境を進めることにより、相互の信頼感が増した自立化した産学連携が実現できる。

これまでの大学は社会から隔離されたような存在であったが、文部科学省文科省の方針により教育、研究に加えて社会貢献が3本目の柱として加えられ、変化してきた。本学の多くの教員は知財の重要性を認識し、コーディネーターがどういったものか、また、その大きな役割を理解するに至っている。事業を継続することによって、意識として定着され、ひいては我国の知財レベルの向上につながる。

「コーディネーター支援型」について。当初は若手も多く、活気があったが、専門性の曖昧さや非常勤という雇用の不安定さ等により、多くの若者が離れてしまったように感じている。現在は定年退職者等が多くなっているのが実状だと感じている。彼らが現在具体的にどのような成果をあげているのかも見えにくいと思う。「仕事」として、若い方々が長期スパンで取り組めるような、施策に修正すべきと考える。きっかけを作ることは大事であるが、施策ののちの雇用問題を各機関任せではなく、踏み込んだ工夫をお願いしたい。